

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	木造建築構法小委員会	主 査 名：権藤智之 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (構法計画運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：角田誠
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・ 木造建築構法に関する構法計画上の研究課題を推進する。</p> <p>1) プレカット機械・CAD-CAM ソフトに関する研究会を開催し、木造建築構法関連分野の広がり、加工機や CAD の分野での近年の進展に関する研究に関する情報を収集する。</p> <p>2) 民家の建築計画研究に関する研究会を開催し、民家を対象に 研究 する計画系の研究成果に関する討論を通じて、構法と使われ方の両面から民家を捉え、両分野の民家研究の進展に寄与する。</p> <p>3) 内外の研究者による木造建築構法関連の研究成果発表会を行い、最新の研究成果を共有するとともに、今後の研究の方向性を見出す。</p> <p>2016 年度：在来木造関連技術の近年の変化に関する調査 (プレカット等)、建築計画分野の民家研究者との研究会、若手の関連研究成果発表会</p> <p>2017 年度：在来木造関連技術の近年の変化に関する調査 (住宅部品等)、中大規模木造建築構法に関して木材関連研究者との研究会、若手の関連研究成果発表会</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>権藤智之 (首都大学東京都市環境学部) 山畑信博 (東北芸術工科大学デザイン工学部) 金子晋也 (札幌市立大学デザイン学部) 大橋好光 (東京都市大学工学部) 後藤治 (工学院大学建築学部) 小林久高 (島根大学大学院総合理工学研究科) 杉本健一 (森林総合研究所構造利用研究領域) 樋口貴彦 (飯田市歴史研究所) 福濱嘉宏 (岡山県立大学デザイン学部) 藤田香織 (東京大学大学院工学系研究科) 堀江亨 (日本大学生物資源科学部) 源愛日児 (武蔵野美術大学造形学部) 吉田倬郎 (工学院大学) 渡邊史郎 (国土技術政策総合研究所)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>比較木造構法 WG：日本および英米を中心とした西洋諸国を対象とし、各国の木造建築構法がどのように発達し、また他国からの影響により変質・展開していったかを横断的に明らかにすることを目的としている。木造構法を比較文化としてとらえることにより、我が国の現在の木造軸組構法住宅がその母体としている伝統的な構法と、工学的な拠り所としている外来の洋風軸組構造との関係を探り、俯瞰的や視野から日本と欧米諸国の木造構法の系譜を明確にする。</p>	
2017 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>1. 現代の木造関連技術については、CLT を対象とした講演・討論を行い、国内外の最新事例に基づき、中大規模木造の課題や今後の展開について活発に議論した。</p> <p>2. 民家については若手研究者 1 名から国内の一連の研究成果について発表を受けた。また海外での民家修復技術についても、その技術研修プログラムに参加した研究者 1 名から報告を受けた。</p> <p>3. 研究成果発表会については 2016 年度に実施した建築学会大会 OS の参加者から上記 1 の国内の民家に関する発表について、さらに詳細に報告を受けた。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 他の小委員会との連携不足</p>